

おわりに

板野中学校の同和問題学習が、全体学習として歩み始めて4年が経ちました。全体学習で熱い思いを語った生徒たちも、社会へ、そして上級学校へと巣立っていきました。心を通わせ合い、支え合い、励まし合った仲間と別れた今、黙ることなく生きていけるだろうか。故郷を否定することなく生きているだろうか。故郷を誇りに思う人づくりこそ、この全体学習が目指している大きな目標です。

今年も「峠を越えて」をまとめました。全体学習がスタートしてちょうど4年目、4冊目の「峠を越えて」となります。私たちのこの1年間のささやかな取り組みの記録です。4月当初に、全学級が全体学習の公開授業に取り組み、3月にはその実践記録をまとめようと話し合っただけのスタートでした。昨年の卒業生が私たちに訴えた言葉、「同和問題学習に取り組んでいたときの私は“輝いていた”と自信を持って言うことができます。私たち卒業生は、この差別と闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を今、在校生の皆様に託します」を私たち一人一人がそれぞれの心に刻みつけての出発でした。

一人一人の本音と本音がぶつかり合い、生徒一人一人の生命がキラキラ輝いた第1回目の全体学習。あの感動は今も鮮烈です。資料に接したとき、目の前の現状をどう受け止め、どう考えどう生きるのか。互いに問い合った全体学習。必死の思いで自分自身を解放し、自分の思いを伝えていく生徒たち。時には顔を紅潮させ、時には涙を流しながらの発言。教師も一人の人間として生徒たちと語り合う。この教師の連帯の姿こそ、この生徒たちの発言の源となっているのだと思います。

3年生にとっては、常に進路問題という大きな峠に向かって歩き続けなければなりませんでした。4月から始まった早朝学習、生徒一人一人を見つめた個別指導。生徒たちを丸ごと愛し思いやり、みんなが心を寄せ合っただけの取り組み。本当に良き生徒たちに恵まれた素晴らしい1年でした。登校した人から着席し静かに課題と向かい合う姿、授業中の真剣な取り組み、輝いた目、グループ学習での支え合い、休み時間あちこちで教え合う姿、どれをとっても本当によかったと心から感じています。

板野中学校に転任してきたばかりの私ですが、よき生徒、素晴らしい先生方と出会え、共に充実した日々を過ごせたことを深く感謝しています。学校生活のすべての場面で前向きに意欲的に活躍した生徒。そして、先生方のしっかりと生徒を包み込み、支え励ますひたむきな取り組みが大きな成果を生んでいきました。

卒業式の日、生徒たちの態度はとても立派でした。板野中学校の卒業式は全体学習がスタートした年から送別の歌にしても校歌にしても、本当に大きな歌声に変わっていきました。本当の思いを語り合える関係が、心の底から大きな声で歌を歌い合う関係をつくっているのだと思います。私はあのときの生徒の姿に感動し、この子たちならきっと「自分はどうか生きていいのか」「自分は何のために生きるのか」を問い続けていける。そう確信しました。自分の生き方を考え、語り合うことの積み上げが本当に素晴らしいものを生んでいく。これが全体学習の喜びだと思います。

言葉は消えていきます。書きとどめ、伝えることをしなければという思いでこの実践記録をまとめました。この「峠を越えて」は生徒と共に私たちが生きた証として、大切にしていきたいと

思います。そして、この冊子が生徒たちの足元を照らす灯のように、心の支えになることを願っています。卒業式の答辞に私たちはこの営みを継続させ一刻も早く部落の完全解放を実現することを決意しました。

※

厳しい寒さに凍りついたかに見えた木々の新芽も、柔らかな早春の陽光に包まれすべてが輝いて見える今日、私たち206名は、共に学んだ板野中学校を巣立とうとしています。

ただ今は校長先生を始め、来賓の方々より温かいご祝辞を、そして在校生の皆様からは励ましの言葉をいただき本当にありがとうございました。思えば3年前、大きな希望を胸に板野中学校に入学してから私たちはすばらしい先生方と温かい仲間と囲まれ、充実した日々を過ごしてまいりました。

初めて着た制服、初めてもらった教科書、初めて知り合った先生や友だち、何もかもが新鮮だった入学式。クラスで団結して取り組んだ文化祭や体育祭。また、私たちにとって一大行事だった修学旅行は自然の大きさを知り、戦争の悲惨さに触れた貴重な体験でした。

自分のために、仲間との勝利のために毎日激しい練習を繰り返した部活動。自分の目指す進路に向かってそれぞれが精一杯努力した受験勉強。すべてが昨日のここのように思えます。

しかし、多くの行事や取り組みの中でも学年全体で取り組んだ同和問題学習ほど心に残るものはありません。この取り組みから、自分自身に誇りを持ち、生きることを意味を知った私たち……。私たちはこの板野中学校で、この体育館で、先生と生徒、先輩、後輩を越え、一人の人間として自らの思いを語り合いました。「本音を語る」ことから始まったこの同和問題学習。私たちはこの取り組みの中で、自らの差別意識と向き合い、差別への怒りに震えた仲間と共に、支え合い励まし合い、いくつもの峠を越えてきました。自らの生き方を見つめるという峠。それはとても険しい道のりだったけれど、「自分を好きだ」と感じたあの瞬間、私たちは「輝いていた」と自信をもって言うことができます。

あの時の自分は、いくら月日が流れても、決して忘れることはありません。

私たちがこのように多くの峠を越えることができたのは、いつも先生方が私たちのそばで温かく励ましてくれたからです。どんなときも深い愛情で接し導いてくださった先生方。そして何よりうれしかったのは先生方自身が本音を語ってくださったことでした。私たちはそんな先生方に出会えた喜びと、感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

この全体学習の中で灯された人間解放の火を大切に燃やし続け、解放の主体者として私たちは生きていきます。

思い返せば、3年前に私たちが乗った列車は、今まで様々な駅に止まりました。しかし、その駅でいつも得たものは、友の大切さと変わることのない絆、そして友情だったと思います。

在校生の皆様、最上級生として良き手本になれたかどうか考えますと心苦しい気持ちがあります。全体学習の場でも、まだまだ十分なリーダーシップの取れなかった私たちでしたが、これからの板野中学校をつくっていくのは皆さんです。あとを引き継いでよりすばらしい板野中学校に発展させてください。そして、どんな苦しい峠にさしかかっても、明日を信じて頑張ってください。

卒業という駅が近づいてまいりました。もうお別れの時となってしまいました。今はただ3年間の思い出が私の前を通り過ぎていくだけです。最後に私たちの思いを詩にします。

いくつかの出会いと別れが通り過ぎて、

それぞれの道へと旅立つ春。

もうここにとどまることができないと、

繰り返す季節が教えてくれた。

この先何がおこるのだろう。どんな出会いがあるのだろう。

あのときの仲間を忘れないで、あのときの笑顔を忘れないで、

どんなときも明日を信じて、

仲間と語り合った夢をいつまでも忘れずに頑張っていこう。

新しい世界に少し疲れたとき、またここにもどってくればいい。

傷ついた心を優しくつつむ、なつかしい仲間がまっているから。

流されそうになっても、決してくじけないで頑張っていこう。

私は私らしく、私の色で輝いていけばいいのだから……。

今ならここから走り出せる。今ならここからはばたいていける。

私たちは仲間と共に人間を学んできた、生きることを学んできた。

その営みの中で、私たちは多くの仲間や先生方に変えられてきた。

私たちは変えられてきた自分から、変わっていく自分となって、

新しい世界でも輝き続ける。

輝いた板野中学校での日々を胸にしまって……。

私たち206名は、夢と希望を胸に、今、板野中学校を卒業いたします。

※

3月15日の卒業式、あの日の感動はすごいものがありました。全体学習に取り組んできた先輩たちの卒業式のすべてがさわやかな感動と、歌声に包まれたきたように、今年度の卒業式も同和教育のすばらしさを私たちに示してくれました。

本年度最後の日、3月31日付けの徳島新聞の「読者の手紙」欄に『志望校に合格・夢実現へ努力』と題して本年度卒業生の手紙が掲載されました。その中には高校に進学した後も先輩や友だちと同和教育に頑張っていこうとする思いが綴られています。その原稿を本冊子のまとめとして紹介します。

※

3月18日、私は無事志望校に合格しました。合格するまでの道のりは厳しく、とても苦しかったです。それは高校入試を簡単に考えていたからでした。

今の成績で志望校は難しいと分かり、必死で勉強したけど成績は思うように上がらず、途中で志望校をあきらめてほかの高校に変更しました。入学願書提出1週間前に担任の先生から「前の志望校を受験してみてもは」と言われ、2日間悩み続けました。

やはり当初の志望高校に行きたいという気持ちが90%あり、石にかじりついても絶対合格をと思い、今まで以上に勉強し毎日が本当に苦しいものでした。その苦しみを乗り越えて頑張ることができたのは、高校に合格して同和教育をやりたかったからです。担任の先生もそのことを知っていたので勧めてくれたのだと思います。

合格した今、先生の期待に応えられるように先輩、友だちと一緒に、苦しいことやつらいことも中学時代にみんなで取り組んだ授業を思い出し、高校でも自分の思いを語って、同和問題の解決に向かって頑張ります。

私の闘いがこれからスタートします。後戻りすることなく少しでも前進することを望んで、4月から待望の高校で一歩ずつ達成していきたい。そして「昨日の自分より今日の自分が好き」になれるように頑張っていこうと思います。

(板野町、MK・15歳・学生)

※

私たちの取り組みについて、校内の先生方、同和教育振興課の先生方をはじめ、多くの先生方から一方ならぬご指導ご助言をいただきました。指導案づくりから授業研究会まで、夜遅くまで検討していただいたことも度々でした。特に板野町社会同和教育指導員の永井先生と現・嶋島町教育研究所の石原先生には、授業実践から資料分析、授業の進め方をはじめとするすべての面でお世話になりました。先生方の言葉は授業記録や研究協議の中にも一部示されていますが、その言葉は私たちに確かな展望と生きる指針を与えてくださいました。本当にありがとうございました。

また、徳島商業高校の岡本先生には、最後の全体学習になった「Y子が獅子になった」の学習の際、直接資料について話をさせていただきました。先生からお借りしている獅子の色紙は、本年度も表紙に使わせていただきました。あの差別に怒った獅子は、いつまでも私たちを励まし勇気づけてくれると思います。

私たちの周りにはいつもすばらしい先生がいました。そして、私たちに生きる勇気を与えてくれました。自らの生き方や生きざまを通して、部落解放の道を共に歩んでくれた吉野校長先生、生徒たちばかりでなく、私たち3年教師集団をも温かく包んでくださった木内先生、生徒一人一人に歌うことのすばらしさ、自分を表現することの喜びを教えてくださいました柴田先生。吉野校長先生、木内先生、柴田先生は、本年度末この板野中学校を最後に教職を去られました。

先生方のご勇退の年にこのような実践を積むことができたことを心から感謝申し上げます。

今後とも、多くの先生方のご指導をいただきながら部落解放の道をひたむきに頑張っていきたいと思います。

1994年3月

板野中学校3年 学年主任 岩佐清子



研 究 同 人

柴	田	翠		
岩	佐	清	子	
富	加	見	正	夫
赤	澤	賢	次	
岡	田	隆	志	
山	口	智	惠	子
森	口	健	司	
豊	田	淳	子	
山	尾	素	文	
阿	部	憲	作	
榎	村	光	世	
吉	成	正	士	
友	成	幸	惠	
板	東	弘	和	
中	山	英	治	